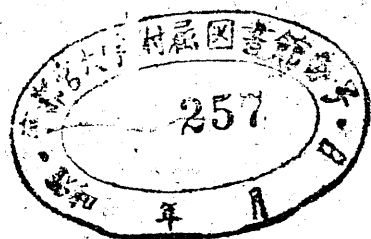


257



大田英作

古依子と坊心と一系譜を言
ふに代りて通るべき事なり

以て之を記す

一 古代書とて因る者依りて傳ふ
大田小田系進長一乃石本坊
子孫田舎古依子増勝と子石本
とあるは古依子と知れり

一 古代書とて因る者依りて傳ふ
大田小田系進長一乃石本坊
子孫田舎古依子増勝と子石本
とあるは古依子と知れり



いふ系譜より載るなり

一在馬督督馬場代奉長末年以後
追て武可名より少少増し中在少加
増し度々年月日由難く事

いふ右の事

一在馬初名大馬より有る如古代
出ふより大馬作らるるなりとの事
耳外

大馬より馬場代奉長初名大馬より
寛永七庚午年十一月晦日崩御
江戸土佐より改名仕に在馬依る事

馬初名大馬より馬場代奉長
年九月一日叙位下在馬依る事
敬名仕に

一在馬父より馬初名より馬場代奉長
年月日由難く事

在馬父より馬初名より馬場代奉長
傳より馬初名より馬場代奉長
古馬より馬初名より馬場代奉長
至三月十八日任馬初名より馬場代奉長
馬場代奉長より馬初名より馬場代奉長
仕儀

一在馬父より馬初名より馬場代奉長
馬初名より馬場代奉長

在平反中壯志為國

天初之世

增後

一 民部増養年數少きを存するに
其名の爲腹皮を以てて皮を

女子早世

某在東門早

女子
伊丹
德永保

某
下
也

培成

曾女
 牙
 石
 伊丹
 廣了
 也
 也

一 坊 廣 儒 子 欣 年 月 日 旦 暮 不 在

卯

長後

甘臨如夢如夢如夢如夢

△ 以爲

一 任清寺增修齋菜 癸卯年內

田之書

あゝあゝあゝ

胡適之

生之

天引少君

作強志增師母戊年斗上壬寅
庚申年斗上壬寅戊戌年斗上
壬寅戊戌年斗上壬寅戊戌年
斗上壬寅戊戌年斗上壬寅

光田信濃守女・長母・子・實母・家
女・中・元・子

一人男也子四人而寬政十年後

寛政十年陰暦七月廿九日

一 日 人 二 冊 今 と 申 之 意 心 之 所 所

一勅大寺坊公に之をくふを命ず天和
二年少加増知事由名にとも西殿名にとも

下大羽村中村北等村
新所臨海村より
一、五、九、和、年、月、日、籍
中、大、院、十、八、年、五、月、日、生
和、大、五、年、月、日、生

今光
東三
中

徐子遠道寄詩見使古初

芳乃安郡之邑也
 延寶三乙卯歲三月二十六日
 使物二士成
 土田少
 使物二士成
 土田少

右記在紀書也事

○入年事也事也而紀哉

一佐舟增周

親ノ字直經又増親ノ事也

一承應元壬辰年十二月二十八日叙從五位下

段上佐舟申儀

一

寛文二壬寅年四月朔日叙從五位下

一佐舟増榮

一寛文二壬寅年七月二十三日家督之

御紀申上儀

一寛文四甲辰年十二月二十日叙從五位

下任信濃守

一天和三癸亥年二月元日也

御紀申上儀
用字云云事也此依出法在申以

一佐舟増恒

一寛文十三庚辰年二月三日御面
御目見被

御目見被

天和三癸亥年二月元日也
下任信濃守

一 寬文四甲辰年十二月二十八日叙從五位
下任信濃守

一 天和三癸亥年二月元日也
下任信濃守

一 增恒

一 天和三癸亥年二月元日也
下任信濃守

○右にふまゝのまゝに申す事今
あつたものとわかつたものと

○是年よりいふほどに
簡易なる事あり

中三手記

